

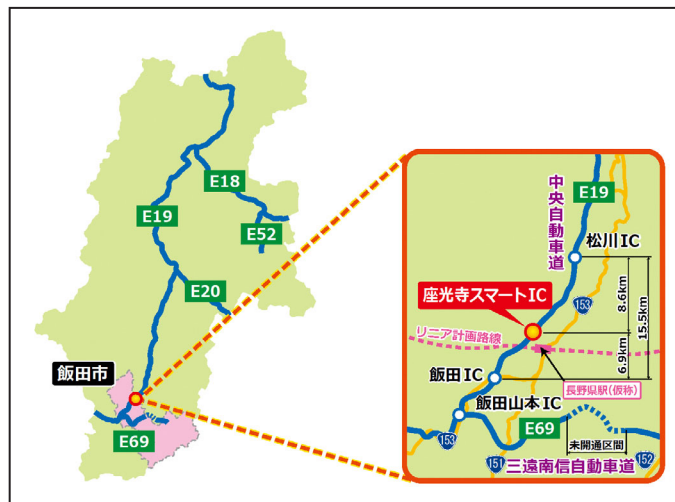
中央自動車道 座光寺スマート IC の開通

飯田市 建設部 国県関連事業課

飯田市の概要

飯田市は、長野県最南端にある伊那谷の中央に位置し、地理的には飯田盆地と南部高原の一部に大別され、市の中央部を北から南へ天竜川が流れています。

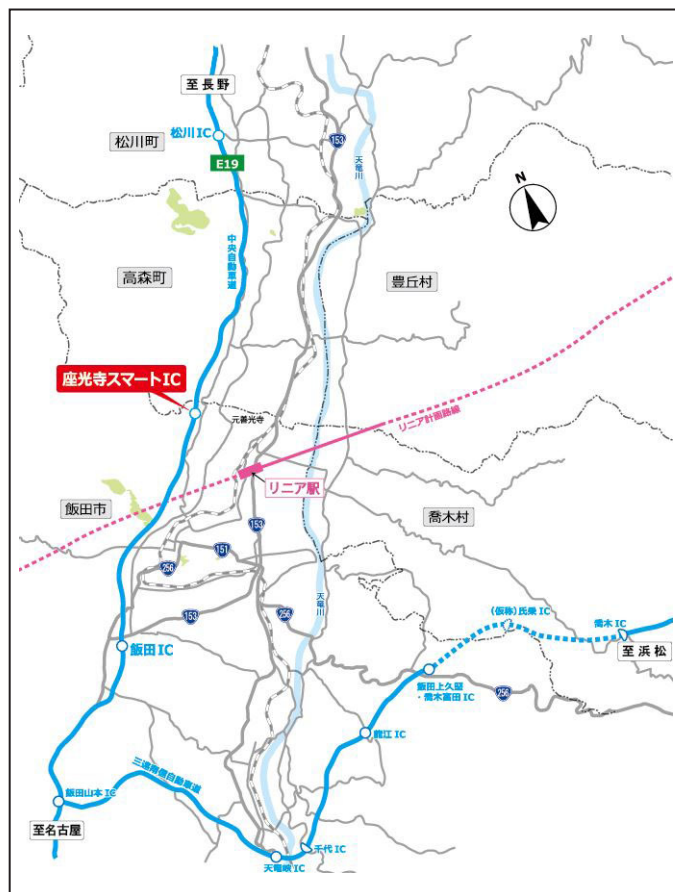
また、南アルプスと中央アルプスに挟まれた本市は、天竜川最下流部（標高約 300m）から南アルプスの聖岳（標高 3,013m）まで、標高差 2,700m を超える我が国最大級の谷地形の中に、何段にも形成された段丘や、日本で最も長い断層である「中央構造線」が刻んだ遠山谷などがあり、我が国でも有数の美しさに変化に富んだ地形を有しています。



飯田市の道路ネットワーク

飯田市内の幹線道路は、南北方向に中央自動車道が昭和 50 年に開通し、並行して国道 153 号が走っています。東西方向には国道 474 号三遠南信自動車道（飯田山本 IC ～飯田上久堅・喬木富田 IC）が令和元年までに開通しています。

また飯田市では、リニア中央新幹線の長野県駅（仮称）の開業が予定されており、現在、リニア駅前空間の設計やリニア駅へのアクセス道路の整備を進めています。



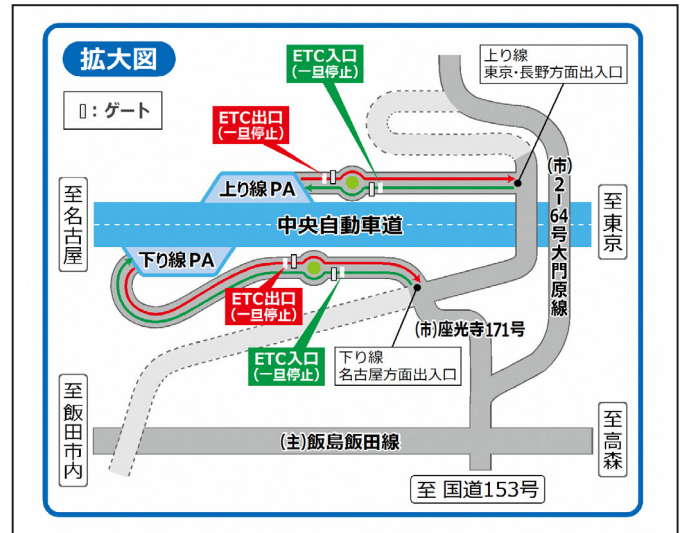
座光寺スマート IC の事業概要

座光寺スマート IC は、中央自動車道の座光寺 PA に設置した、環道型の IC であり、ETC 車載器を搭載した全車種（軽自動車等、普通車、中型車、大型車、特大車、ただし車長 12m 以下）の 24 時間利用が可能となっています。

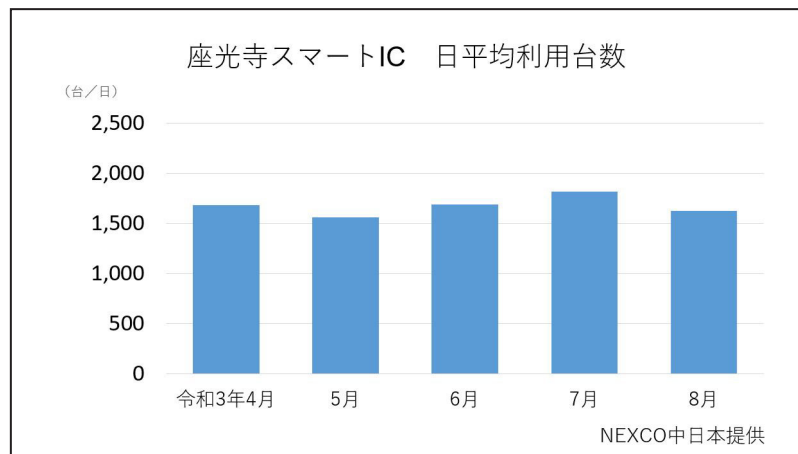
令和 3 年 3 月 28 日に開通後、半年足らずではありますが、利用台数は順調に推移しており、今後も利用台数の増加に期待しています。



<<座光寺スマート IC >>



<<座光寺スマート IC の計画平面図>>



座光寺スマート IC のストック効果

座光寺スマート IC は、国道 153 号の渋滞緩和や周辺市町村から高速道路へのアクセス時間の短縮のほか、物流効率化、防災機能の強化など、当地域の発展に大きく寄与することが期待されています。

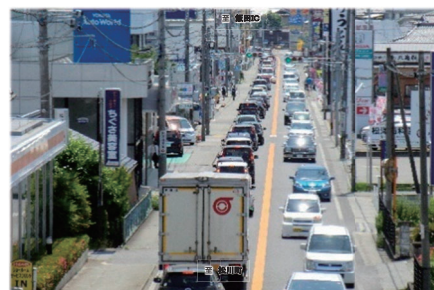
また、リニア中央新幹線開業後には、当地域が長野県の南の玄関口として、更に人の流れや物流が加速され、農業・工業・商業・観光といった様々な産業のより一層の発展が期待されます。

○高速道路の利便性向上

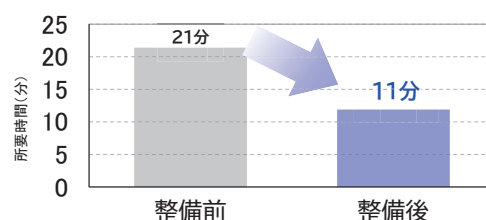
高森町や豊丘村方面から国道153号の渋滞を回避した高速道路へのアクセスが可能となりました。

○高速道路へのアクセス時間の短縮

①国道153号における飯田IC方面へ向かう車の状況



渋滞及び事故多発箇所を回避し、高速道路へのアクセス時間が**約10分短縮**！



※算出区間は出砂原交差点(国道153号)付近～飯田IC
※所要時間は民間プローブデータ(2015年9月)より算出



○地域農産物の支援

座光寺スマートIC周辺の選果場などでは、高速道路へのアクセス性向上により、商品の流通効率が向上します。

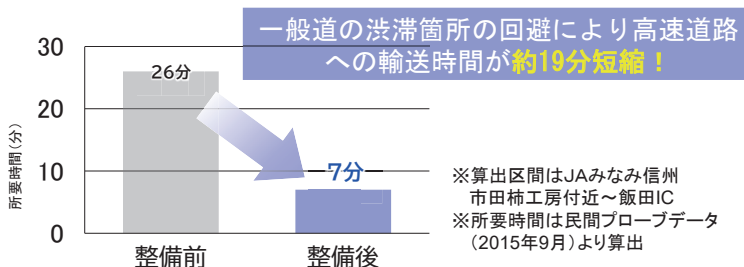
○スマートIC利用による輸送時間の短縮



▲JAみなみ信州市田柿工房(H25.4月完成)は市田柿(干し柿)を出荷。年間売上額は約8億円



▲市田柿(2006年に地域ブランドとして登録された南信州を代表する特産品)



※算出区間はJAみなみ信州市田柿工房付近～飯田IC
※所要時間は民間プローブデータ(2015年9月)より算出

・飯田IC周辺の国道153号は慢性的に渋滞しているため、商談などで名古屋・大阪方面から当該工房へいらっしゃる際には、座光寺スマートICを利用することで国道の混雑を回避できるのではないのでしょうか。

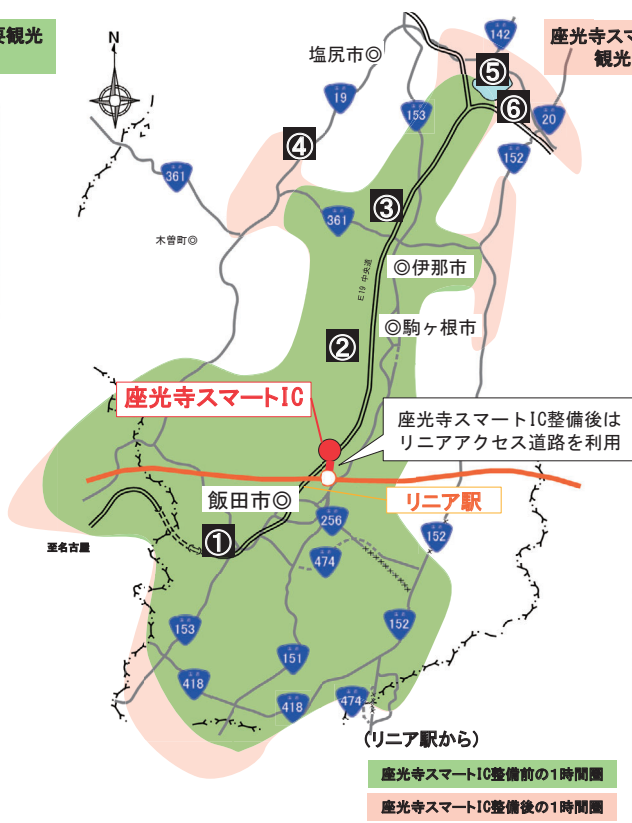
出典：JA南信州市田柿工房ヒアリング



○リニア中央新幹線開業時の広域観光支援

リニア中央新幹線長野県駅（仮称）と高速道路とのアクセスが短縮されることで圏域が広がり、広域的な観光支援が図られます。

座光寺スマートIC整備前の1時間圏内の主要観光地（観光地利用者数が50万人以上/年）



座光寺スマートIC整備後、新たに1時間圏内となる主要観光地（観光地利用者数が50万人以上/年）



今後の地域の発展に向けて

現在、リニア中央新幹線開業に向けて、飯田市及び長野県のそれぞれで、座光寺スマート IC 周辺やリニア駅周辺における道路の整備を進めています。

今後も引き続き、地域住民の皆様のご理解とご協力を頂きながら、便利で暮らしやすい地域になるよう、官民が一体となって全力で取り組んで参ります。

<座光寺スマート IC の経緯>

- 平成 26 年 ～ ： 地域住民と座光寺スマート IC の検討開始
- 平成 28 年 5 月 ： 座光寺スマート IC 地区協議会設立
- 平成 28 年 6 月 ： 国土交通大臣による連結許可
- 平成 28 年 ～ ： 路線測量、詳細設計、地質調査、用地測量、物件調査
- 平成 30 年 9 月 ： 用地関係者組合設立
- 平成 30 年 ～ ： 用地買収、物件補償
- 平成 31 年 2 月 ： 準備工事着手（工事用道路、残土受入地、水道移転等）
- 令和 元年 12 月 ： 座光寺スマート IC 工事着手
- 令和 2 年 3 月 ： 「座光寺スマートインターチェンジ」の名称決定
- 令和 3 年 3 月 ： 座光寺スマート IC 開通